



若尾 きみえ
通信 19



2018年 7 月 1 日号

Tel/Fax 042-668-1020

E-mail info88@wakaokimie.jp

http://wakaokimie.jp

http://twitter.com/wakao_kimie

発行 若尾きみえと生き生き市民会議

▶元八王子市議会議員 若尾きみえの活動と市政報告

防災を考える

1. 蘇る震災の記憶 ～大阪北部の地震を受けて～

6月18日、大阪北部で震度6弱の大地震が発生しました。お亡くなりになった方々、被災された方々に心から、ご冥福とお見舞いを申し上げます。東日本大震災後、各地域で減災の取り組みが地域で進められてきたと思います。私自身、防災について様々な情報収集をし、町会の自主防災で活動を推進してきた立場ではありますが、今回の地震を受けて、人はいつの間にか、「まだ大丈夫」と楽観の気持ちに流れてしまう傾向があることの怖さを感じています。

首都直下地震が30年以内に発生する確率は70%。改めて、自分の身を守り、被害をできるだけ少なくできるように、まずは自助、そして共助・公助に加え、近助力（ご近所の助け合い）を上げていくことも重要だと再認識しています。



【日頃の備え】

- 自助・共助、近助力アップ！**
- 安全点検と家具の転倒対策（ブロック塀の点検も！）
 - 災害時の行動指針と防災訓練（平時の防災訓練が命を救う）
 - 水・食料の備蓄（最低1週間分 調理器具も）
 - 家族の連絡方法の確認
 - 地域のつながり（安否確認や救助活動は近助力）

2. 備えあれば憂いなし ～平時からの備えが大切～

◎家具の転倒防止とガラスの飛散防止策の重要性

阪神淡路大震災で建物の中で怪我をした人の46%が家具の転倒と落下が原因で、ガラスの飛散によって怪我をした人は29%。怪我をした人の4分の3の人が家具とガラスで怪我をしているという調査結果があるそうです。つまり、家具の転倒とガラスの飛散防止対策が、怪我対策の要と言えます。

◎防災アドバイザー山村氏講演会から

○微振動に気付いた後の行動が生死を分ける

防災・危機管理アドバイザー、山村武彦氏の講演会でのお話では、地震のわずかな揺れに気が付いて、すぐに安全な所に逃げるか。それとも、そのうち治まるだろうと思い、何もしていないか。その一瞬の判断と行動が明暗を分けるとのこと。映像を見ながらのお話の衝撃は今でも忘れることができません。

○防災訓練はやっぱり有効

人間は危機が迫っている時に、落ち着いて行動できる人は10～15%、我を失って泣き叫ぶ人は15%、

【非常用食料の備蓄】

ローリングストック方式

非常用備蓄には、日常の食品を少し多めに買い、消費しながら備蓄する方法が有効。普段通りの食事でストレスも軽減。果物、ドライフルーツ、ナッツは調理なしで、日常食、非常食にもお勧め！

ショック状態に陥

り啞然として何もできない状態になってしまう人は70～75%という研究データもあるとのこと。東日本大震災では、迫り来る津波を前に、凍り付き症候群に陥って身動きができなくなり、飲み込まれて亡くなってしまいうケースがたくさんあったそうです。



しかし、防災訓練をしておけば、脳の中に回路ができてきているので、パニックにならないで行動することができるとのこと。日頃から、地震の際、危険物と化するものを点検し、自分なりの防災訓練をしたり、地域での防災訓練に参加したりしておくことは、脳の中に回路ができ、パニックにならないで行動ができることにつながり有効です。

3. 子どもたちの安全を守るために

大阪北部の地震でも学校のプールの古いブロック塀が倒壊し、小学生の子どもが亡くなるという大変痛ましい状況が起きました。日常の光景が地震で一瞬にして凶器と化してしまう現実を目の当たりにしました。

塀の倒壊対策として、建築基準法施行令が改正されましたが、罰則規定がなく、危険な塀が放置されたままになっている現状があります。今回の悲劇は行政の対応の遅れが招いたものですが、私たち個人も、子どもたちの安全の確保に向け、日頃から自宅の塀の点検と修理など対策をしておくことが重要です。

■ブロック塀点検の問い合わせ先の紹介

*公益社団法人 日本エクステリア建設業協会

<https://jpex.or.jp>

*ブロック塀点検表は若尾きみえのホームページ

<http://wakaokimie.jp>でも紹介しています。

■生け垣造成補助制度の紹介

八王子市では、塀を撤去し、生け垣を設置する場合には、補助金が出ます。

4. 行政の公助の状況は？

◎災害時の給水はどうなる？

○八王子市内の災害時給水所は

19箇所 給水車は1台のみ

私の住む地域の町会では、毎年、災害時給水拠点である東浅川給水所で見学会を開催してきました。参加して毎回感じるのは、見学会ですら、水道の蛇口の前に列ができる状況。災害時に給水所で水をくむことがいかに大変か、さらに、自宅まで運ぶのも大変だということです。

やはり水の備蓄は重要。また、給水所では飲み水優先になるため、家庭でお風呂の残り湯を流さないことも有効な対策です。

◎帰宅困難者になることも想定して

東京都は、震度6強で220万人分の帰宅困難者を想定。都内の備蓄は22箇所、給水所は212箇所。備蓄は当てにはできない状況です。阪神淡路大震災の時、コンビニで一番初めになくなったのは、水だったとか。出かける時は、必ず水筒の水や飴などを持ち歩くのも大切ですね。

【大地震時の都の方針】

公共交通の復旧の見通しが立たない場合、救助活動の妨げや帰宅中の二次被害を防ぐために72時間安全な場所にとどまるように呼びかける方針。

職場での待機など安全な待機場所の確保について、日頃から検討しておくことも必要になってきます。



写真で見る

活
報
告



防災訓練でローリングストック方式の紹介



東浅川給水所での見学会の様子



野鳥観察会に参加

あなたのご意見・ご提案をお気軽にお寄せください！

若尾きみえと生き生き市民会議

〒193-0833 八王子市めじろ台3-19-14

E-mail: info88@wakaokimie.jp

TEL&FAX 042-668-1020

HP <http://wakaokimie.jp> 若尾きみえ

若尾きみえプロフィール▶1964年岡山県生まれ。岡山大学教育学部卒業。岡山市立幼稚園にて教諭。結婚を機に退職し、その後、仙台市、富山市にて英会話講師。1998年から八王子市散田町、2006年からはめじろ台在住。2003年市議会議員選挙初当選後、2期活動。▶主な活動実績/八王子市環境基本条例制定に向けて活動 八王子市西南部環境市民会議会員 八王子まち創造塾理事 地域で高齢者福祉や防災の問題に取り組む。まち興しに向け、歴史・文化・自然など地域のお宝を発掘中。▶趣味/柴犬、ガーデニング、アロマセラピー、音楽鑑賞、陶器、温泉